

(株)イワクラにおける木質資源の活用と今後の展開 —創業百年における新たな創業への挑戦—

株式会社イワクラ 管理部技術開発室 室長 高橋 賢孝

URL <http://www.iwakura-corp.jp/>



■創業百年の歩み

イワクラは創業（1913年）以来、長年に渡り木を原点とした事業に携わってきており、環境方針として森林資源の有効活用を掲げています。

創業以来の生業である林業（林材部）においては、国有林を主に年間約5万 m^3 程度の原木を扱っており、木材における川上事業として、イワクラを支える原点となっています。



(林業施業状況)

昭和28年に日本で最初に事業化したパーティクルボード事業（建材事業部）は、現在もイワクラの基幹事業として半世紀以上も生産を続けており、建築解体材等の木質廃材や間伐材や林地未利用材を原料化した、リサイクル製品・未利用木材活用製品となっており「北海道認定リサイクル製品」を受け、主に建築用下地材・厨房機器部材として使用されています。製品として年間48,000トン（原木換算約10万 m^3 ）生産しています。



(パーティクルボード生産ライン)

グループ会社にハウスメーカーがあり、2×4パネ

ル・トラス工場を有している住宅部は、年間12万 m^3 の部材を扱っています。現状オール輸入材（カナダ材）の使用となっていますが、数年前より産学官の取組として道産材（カラマツ・トドマツ・道南スギ）の活用を目指しています。



(2×4パネル・トラス工場)

今までの社内事業は木質材をマテリアル利用とした事業でしたが、平成19年よりサーマル利用として木質ペレット事業を開始しました。札幌市を大きな市場とした公共施設（学校・動物園等）における木質ペレットの需要促進に対し、燃料としての安定供給を担保する為に、本年度増産を目指した原料の乾燥設備を新設し、年間1,500トン（原木換算約3,000 m^3 ）、3交替生産ですと5,000トン（原木換算約10,000 m^3 ）の生産が可能となります。



(木質ペレット)

■原料集荷ネットワークづくり

製造事業において原料の確保は最優先課題です。木質原料を利用して多角的に事業展開しているイワ

クラは、社内事業において木のカスケード利用を可能としており、最も品質が高い原木を加工して製品化するシェービング（寝ワラ・敷料）を頂点に、木質ペレット、パーティクルボード、以上の製品の原料にならないような最低品質の木質材は、製造の為に熱源となるパーク（木屑焚）ボイラの燃料となります。このようにあらゆる木質材はイワクラの各事業の原料と成り得る為に、全社部門横断の集荷ネットワークを平成22年から立上げ現在年間10万トンに近い木質原料を集荷しています。



(集荷ネットワーク)

木質原料の集荷においてイワクラはいち早く林地未利用材の集荷に取り組み、平成19年より各種補助事業を活用しながらシステムを構築し、現在は補助なしに集荷事業として十分に成り立っており、建設会社がこの事業への協力業者となっています。追上材・末木・枝状等、今まで林地に放置されていた木質材を集材し、移動式チップパー機で現地チップ化し搬出します。



(林地未利用材現地チップ化)

■新たな創業

新世紀となる創業101年目のスタートの年に、新たな創業の夢を拓く再生可能エネルギー事業に参画することになりました。木質バイオマス発電事業です。イワクラ・三井物産・住友林業・北海道ガスの4社による共同出資により「苫小牧バイオマス発電株」という新会社を設立します。

イワクラに隣接する場所に発電規模5.8MWの発電施設を建設し、再生可能エネルギー固定買取制度（FIT制度）を利用し発電事業を行うもので、平成27年度5月に着工、平成28年度12月の稼働を目指すものです。燃料となるチップは北海道における林地の未利用木材を100%利用するもので、この集荷においてもイワクラが長年の事業遂行において蓄積したノウハウを大いに役立てるものです。



(プラント用地)

年間約8万㎡の木材を使用するこの事業は、新たな林業の活性化に繋がる起爆剤と成り得る事を事業者として確信しています。最低でも20年間の継続事業であり、林業における全く新たなビジネスモデルを構築することにより、雇用の創出・通年事業の確保・計画生産計画販売・流通改革・林業の機械化を強力に促すものと考えています。今まで事業として自立出来ていなかった面が強い林業関係者に自立の為にモチベーションをもたらすものです。ただこの事業の立ち上がり時には発電事業者側が、すっかり産業としては体力が弱っている林業に対し理解力を示し、積極的に支援協力してゆくことが必要です。その為にも長年林業を生業としているイワクラの全面的な事業へのバックアップが重要で、かつイワクラが参画している意味があると考えます。

新たな創業に挑戦!



(イワクラの事業4本柱)